スーパーガンコマサ：施工方法

施工手順、施工上の注意、施工道具を確認してから施工してください。

1.施工する場所を決める



施工場所を決めてください。四隅にピンや杭を打ったり、木枠を仮置きすることで施工範囲の目印にしてください。
施工範囲が決まったらスーパーガンコマサ購入時の数量計算のため面積を測ってください。
施工完了後に水溜りができないようにするために、排水される箇所もイメージしてください。
下地に砂や泥が多い場合は施工できません。

2.地面を整地する





雑草が生えている場合は根から除去してください。根が残っていると生えてくる場合があります。
下地を踏んだりレンガで叩いたりして強固にしてください。踏みつけて沈む感覚がなくなれば充分です。
下地が平らでなかったり、凸凹があると、規定量以上の材料が必要になる場合があります。
再度整地するか、余裕を見て材料を用意してください。

3.端部位置を決める(施工場所の端を決める)



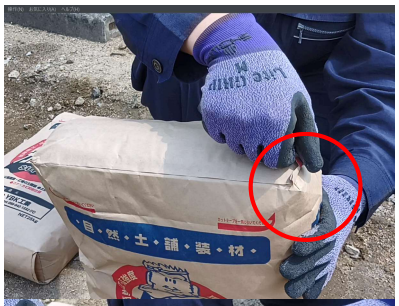

スーパーガンコマサの施工厚(敷き均す厚み)を考えながら端部にレンガやブロックを設置してください。施工厚は雑草防止の場合は3cm、日常的に歩行する場合は4cmです。
端部に何も設置しない場合は仮の木枠を設置すると、敷き広げる時に施工範囲外に流出しにくくなります。

4.材料購入



測った面積に合わせて材料を購入してください。
雑草防止の場合(3cm)は1㎡に2.4袋、
日常的に歩行する場合(4cm)は1㎡に3.2袋が必要です。
下地に凸凹がある場合は少し多めの購入をおすすめします。
※指差し部は封入口です。多少の漏れがある場合がありますが不具合ではありません。

5.施工開始　材料配置





施工場所全体にバランスよく配置してください。配置が終わったら袋を開封してください。
まず、袋を立て上部の左右に少し出ている箇所(赤丸部分)があるので摘み、反対側まで一気に引っ張ってください。
次に、中央部を摘まんで引き上げ、開口部を広げてください。開いたら袋を逆さまにして中身を出してください。
この時、袋を勢いよく引き上げると粉じんが舞い上がるため、ゆっくり引き上げてください。





材料が大量にある場合は、袋の側面を鎌やカッターで切り裂いて開けると素早く開封できます。

6.敷き広げ




コテを使用して材料を全体に敷き広げてください。
施工完了後に雨水が排水されるように傾斜を付けてください。
ある程度敷き広げた後は押し込むように圧をかけながら敷き広げると仮固め時の手間が減り効果的です。
植樹の周りに施工する場合は根元周りを幹の直径の3倍以上空けて敷き広げ、空けたところには後でウッドチップ等のマルチング材を入れてください。

7.目地設置　※雑草防止目的では必要ありません。



大きなひび割れの防止のため目地を設置してください。
敷き広げの際に目地を入れる場所を掘り返し目地材を埋め込んでください。
目地を入れる間隔は5m以内且つ10㎡以内で長方形になるようにしてください。
詳しくは末尾の「目地の必要性と設計の考え方」をご覧ください。
目地材は高さ3cm・幅1cm程度の伸縮性のあるものを推奨します。

8.仮固め





下地を平らにした時と同様に踏んだり、コテで叩いて固めてください。
踏みつけて沈む感覚がなくなれば充分です。
端部や圧をかけにくい箇所は小さな木の板等をゴムハンマーで叩いて固めるのも有効です。

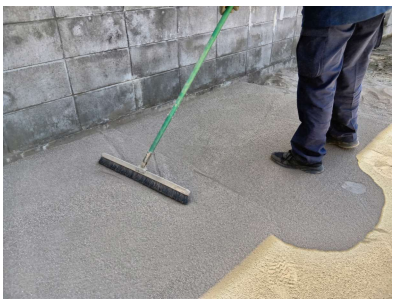
9.表面を平らにする





排水方向を考慮しつつコテで表面を平らにしてください。
施工前に決めた厚みが確保できているか実際に掘り返して確認し、不足している場合は材料を追加してください。
仮の木枠を設置している場合は外して、端部になだらかな傾斜をつけてください。

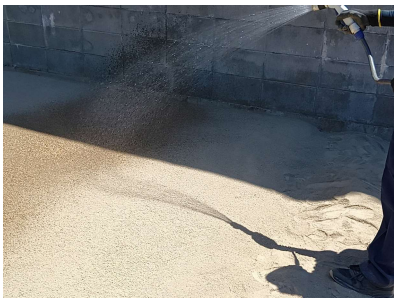
10.表面を整える





自在ほうきで表面の粒の偏りをなくし、均一な見た目にしてください。
最初はコテ跡や足跡が消えるように強く、最後はほうき跡が残らないように軽く撫でるようにすると綺麗にできます。
ほうきを施工面に置いた際に重みで跡がついてしまうためゆっくりと施工面に置くようにしてください。端部からスタートすることでほうき跡が目立ちにくくなります。

11.水まき





表面が荒れないようにシャワー状の柔らかい水まきをしてください。
※水まきに必要な量
・施工厚4cmは1㎡に11～12L　　・施工厚3cmは1㎡に8～9L
水まきは数回に分けて行い、1度の水まきは表面に水が軽く浮き上がる程度に留め、水溜りができないようにしてください。
段々と水が入りにくくなりますので、入りにくく感じてきたら12.水の浸透確認をしてください。

12.水の浸透確認





豆ゴテ等で施工面を直接掘り返して水が施工厚の2/3以上浸透していることを目視で確認してください
2/3以上浸透していない場合は再度水まきをしてください。
掘り返した材料は崩して埋め戻し、軽く叩き締めてから水をかけてください。

13.仕上げの締固め




水まきから、夏季は15分後、冬季は30分後を目安に全体をコテで叩き締めてください。
叩き締めの際はコテの角で跡が付かないように気を付けてください。
木の板等がある場合はそれを敷いて上から踏み固めることもできます。
水の浮き箇所は後回しにする等して避け、水が引いたのを確認してから締固めてください。

14.仕上げの水まき



急激な乾燥を防ぐため、仕上げの締固めの1時間後を目安に、表面に軽く水が浮き上がる程度の水まきを1回してください。
※水溜りになるほどまかないでください。
※夏季施工時には翌日も水まきをしてください。

15.洗掘(せんくつ)防止



※必要な場合に行ってください。

施工箇所の上に軒先や樹木がある場合は、雨垂れにより施工面が洗掘するおそれがあります。
ブルーシートや木の板等を置いて1週間程度は直接雨垂れが当たらないようにしてください。

注意事項

1.屋内やコンクリート・アスファルトの上では使用しないでください。
2.車の荷重には耐えられませんので、駐車場として使用しないでください。
3.降雨、降雪時には施工しないでください。
4.施工日及び施工後3日以内に大雨が見込まれる場合は施工しないでください。
5.施工日及び施工後1週間以内に氷点下が見込まれる場合は凍結の恐れがあるため施工をしないでください。
6.風の強い日は粉じんが舞いやすいため施工しないでください。また、近くに洗濯物を干している場合は片付けてから施工してください。
7.施工の際はマスク、手袋、防護メガネ等の保護具を必ず着用してください。
8.金コテは使用せず、木コテやプラスチックコテを使用してください。万が一、擦ってしまうと土系舗装の風合いを著しく損ないます。また表面の状態により、白華(はっか)が助長されます。
9.法面(のりめん)施工を行う場合は別途法面の施工手順を確認してください。
10.自然土が主原料のためロットにより多少色の違いがあります。
11.自然土の風合いを出すため、表面の粒が若干取れることがあります。取れた粒は真砂土なので花壇の土や土壌に再利用できます。
12.開封前は湿気の少ない場所で保管し、開封後はお早めにご使用ください。
13.袋や残ったスーパーガンコマサの処分については自治体の処分方法に従って適切に処分してください。

施工道具チェックリスト

〈施工時に必須の道具〉

- ☐ 木コテ・プラスチックコテ
- ☐ 自在ほうき
- ☐ 水平器
- ☐ 散水ホース(シャワータイプ)
- ☐ ジョウロ
- ☐ メジャー
- ☐ 豆ゴテ・園芸用小スコップ
- ☐ 型枠(木枠)と固定ピン
- ☐ マスク・手袋・保護メガネ

〈施工時にあると便利な道具〉

- ☐ 木片とゴムハンマー
- ☐ レンガ
- ☐ 木の板・コンパネ
- ☐ レーキ

株式会社ワイ・ビー・ケイ工業
〒779-3128
徳島県徳島市国府町延命385-1
TEL：088-642-1332
FAX：088-642-1340
E-mail：info@ybk-jp.com
HP：http://www.ybk-jp.com/

YBK industrial corporation

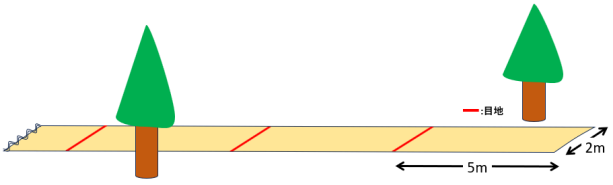
目地の必要性と設計の考え方

株式会社ＹＢＫ工業
開発部

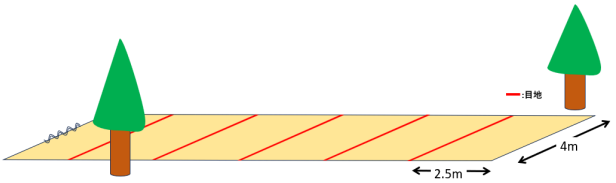
歩道や広場に対し当社製品を施工する場合、せり上がりやひび割れを軽減するために目地の施工が必要となります。一方、防草目的の場合やせり上がり、ひび割れが問題にならない施工場所の場合は目地の施工は必要ありません。

【せり上がりやひび割れを防ぐ必要がない場所での施工】
目地は必要ありません。

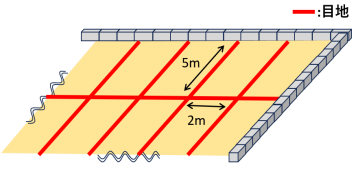
【歩道など細長い場所の施工】
幅が2m以内の場合：５m間隔で目地を設置してください。



幅が2m以上の場合：目地割区画が10㎡以下で、区画形状が長方形になるように目地を設置してください。
※正方形になるとひび割れ方向の予想が付かず、縦横無尽にひびが入ってしまうと補修が困難となります。
※例えば、歩道の幅が4mの場合、長手方向に約2.5mごとに目地を入れてください。



【広場のような場所での施工】
目地割区画が10㎡以下で、区画形状が長方形になるように格子状もしくは任意のパターンで目地を設置してください。※例えば、幅2m×長さ5mで格子状。



【歩道に曲がり角や構造物、広場に切り欠き部や構造物がある場合】
曲がり角や切り欠き部の頂点から他辺へ、構造物から他辺へ目地を入れてください。

